

原 著

## 子ども虐待予防を重視した妊娠期の父親に必要なコンピテンシー ～妊娠後期の第1子の父親へのインタビュー調査から～

青木亜砂子, 上田 泉

札幌医科大学保健医療学部看護学科

【目的】 子ども虐待予防の観点から妊娠後期の父親が捉える妊娠期に必要な父親のコンピテンシーを明らかにし、妊娠期の父親への支援について示唆を得ることである。

【方法】 妻が第1子を妊娠中の妊娠後期の父親6名を対象とした。データは、半構成的面接により収集し、質的記述的に分析した。

【結果】 妊娠期に必要な父親のコンピテンシーとして、【妊娠中の辛さを理解し母親に寄り添う姿勢を持つ】、【信頼関係を構築し夫婦で協働する】、【子どもに父親としての愛情を育む】【父親役割と父親像を模索する】、【父親としての自覚と責任を持つ】、【父親として妊娠・出産・育児の準備をする】、【育児を思い描き他者との関係性を構築する】の7つが抽出された。

【考察】 これら父親のコンピテンシーは、父親の役割を認識し高める能力、父親としての準備段階の能力、夫婦関係を強化していく能力、家族外の他者とつながる能力が示唆された。

キーワード：子ども虐待予防, 妊娠期, 父親, コンピテンシー

### Investigating the Competencies needed by fathers during pregnancy with a focus on child abuse prevention: results of interview surveys of fathers of first children during late pregnancy

Asako AOKI, Izumi UEDA

Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

[Purpose] This study aimed to determine the father competencies needed during pregnancy as perceived by fathers during late pregnancy and identify suggestions to provide potential support to be provided to fathers during pregnancy, from the perspective of child abuse prevention.

[Methods] The study participants were six fathers whose wives were in late pregnancy with their first child. Data were collected in semi-structured interviews and analyzed using a qualitative descriptive method.

[Results] Our analysis uncovered seven competencies fathers needed during pregnancy: understanding the hardships of pregnancy and assuming a supportive posture; building a relationship of mutual trust and cooperation as a couple; searching for both the role of a father and a concept of fatherhood; fostering paternal affection for the child; having both self-awareness and a sense of responsibility as a father; preparing for pregnancy, birth, and childcare as a father; and, envisioning childcare and building relationships with others through.

[Discussion] Our results suggest that these father competencies are: competency to recognize and expand one's role as a father, competency as a father through preparatory stages, competency to strengthen the relationship between mother and father, and competency to connect with people outside the family.

Key words : child abuse prevention, pregnancy, fathers, competencies

Sapporo J. Health Sci. 11:39-44(2022)

DOI: 10. 15114/sjhs. 11. 39

## I. はじめに

「児童虐待の防止等に関する法律」(以下「児童虐待防止法」2000年制定)が施行され20年が経過している。これまで、子ども虐待については発生子防や早期発見、虐待をされた子どもの保護や切れ目のない支援が行われるように対策が推進されてきている<sup>1)</sup>。

特に、乳幼児期における子ども虐待を防ぐためには、妊娠期からの支援が重要である。現在市町村が行っている妊娠期の母子保健事業としては、母子健康手帳交付時の面接、妊婦への家庭訪問、両親もしくは妊婦学級などがあるが、いずれも母親が主な対象となっており、妊娠期に父親が支援を受けられる機会は両親学級などに限られている。その両親学級については、受講生が2割と少なく、妊娠や出産についての講義や妊婦ジャケットを装着した疑似体験など母親の育児をサポートする観点を中心である<sup>2)</sup>ため、多くの父親は妊娠期に支援を受けられる機会がない中で妻の出産に伴い否応なしに父親としての行動が求められる現状にある。令和3年度に報告された「健やか親子21(第2次)の中間評価等に関する検討会報告書」<sup>3)</sup>では、出産・育児への父親の積極的な関わりを期待しつつ、父親の産後うつなど父親自身も支援される立場にあり、父親の孤立を防ぐ対策を講じることが急務であると課題提起されており、父親を対象とした支援の在り方の構築が急がれるところである。

先行研究では、父親を対象とした多くの研究がされているがその内容は、父親の役割や役割行動<sup>4)5)</sup>についての研究、父親としての発達について明らかにした研究<sup>6)</sup>が中心となっている。虐待予防の観点から妊娠期の父親に必要なコンピテンシーについては、まだ明らかになっていない。そこで、今回は、妻が妊娠後期にある父親を対象として、子ども虐待予防の観点から妊娠後期の父親が捉える妊娠期に必要な父親のコンピテンシーを明らかにし、妊娠期の父親への支援について示唆を得ることを目的に調査を実施した。

## II. 用語の定義

『父親のコンピテンシー』:本研究における父親のコンピテンシーとは、Shippmann,et.ai<sup>7)</sup>らの定義を参考に「妊娠期の父親に必要な行動特性や姿勢」と操作的に定義する。

『父親』:本研究では、子ども(胎児を含む)との関係性において父性に基づいた親のことで定義する。しかし、父親としての認識は、子どもが誕生するまでに親になるという準備段階を経て父親としての発達プロセスを体験して形成される<sup>8)</sup>ため、子どもが誕生するまでの準備段階である妊娠期においては、子どもを体内に宿している母親に対して行った行動などについても「妊娠期の父親のコンピテンシー」としてとらえることとする。

なお、本研究では子どもとの関係性において父親、母親を

用い、夫婦間での関係性においては夫及び妻を用いる。

## III. 研究方法

### 1. 研究デザイン

質的記述的研究デザインとした。

### 2. 研究対象及び研究参加者の選定

対象は、妻が第一子を妊娠中で、妊娠後期(妊娠28週以上)にある父親とした。

研究参加者の選定は、機縁法により紹介を受け、その後直接研究の趣旨を説明して、協力依頼を行い、同意が得られた父親6名を研究対象とした。

### 3. データ収集期間と収集方法

データ収集は、2017年9～12月にかけて行った。インタビューガイドに基づき、半構成的面接を実施した。面接は1名につき1回約30～60分程度実施した。インタビュー内容は、対象者の許可を得てICレコーダーに録音をした。インタビューの内容は、①「今現在、妻が妊娠中のお腹の子どもにとってどのような父親か、どのように関わっているか、どのような役割を担っているか」、②「どのような父親になりたいか」③「子ども虐待を予防する観点から妊娠期に父親に必要なことは何か」である。面接場所は、対象者のプライバシーが確保できる個室で実施した。

### 4. 分析方法

研究参加者ごとに語った内容を逐語録に起こし、「子ども虐待を予防する観点から妊娠期の父親に必要なこと、今現在、お腹の子どもにどのような関わりや役割を担っているか、どのような父親になりたいと思っているか」、などについて語っている内容を、意味ごとに文脈を区切り、簡潔に表現しラベル化した。ラベル化したデータを意味内容の同じものをまとめてコードとした。抽出したコードをそれぞれ意味の同質性と文脈に基づいて分類、整理しサブカテゴリを生成した。さらに、類似性と相違性に留意しながらカテゴリを抽出した。なお、分析結果や解釈については、共同研究者間で検討及び確認を行った。

### 5. 倫理的配慮

研究参加者の個人情報保護のため、研究協力への同意に対する自由意志や研究協力の撤回の自由、データの目的外使用の禁止、データ等個人情報の厳重管理、研究結果の学会・学術誌での公表の可能性について文書と口頭で説明し、同意書への署名をもらうことで同意を確認した。なお、本研究は、札幌医科大学倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号28-249)。

## IV. 結果

### 1. 研究参加者の概要 (表 1)

研究参加者の概要として、父親の年齢は、30歳代が4名、40歳代と50歳代が各々1名であった。妻の妊娠週数は、32～38週にあり、全員が第1子目の妊娠で、妊娠経過は良好であった。全員が夫婦のみの世帯であった。婚姻期間については、1年未満が1名、1～3年が4名、7年目が1名であった。

### 2. 父親が捉えた妊娠期に必要な父親のコンピテンシーについて (表 2)

妊娠期の父親に必要なコンピテンシーとして、インタビューから105のデータを抽出し、意味内容の同質なものをもとめ、32のコードを抽出し、さらに15のサブカテゴリと7のカテゴリが生成された。以下、カテゴリを【 】, サブカテゴリを< >, コードを< >, 代表的な語りの一部を斜体で示す。

#### 1) 【妊娠中の辛さを理解し母親に寄り添う姿勢を持つ】

研究参加者たちは、子ども虐待を予防する観点から妊娠期の父親に必要なコンピテンシーとして、まずは、<妊娠中の母親の辛さを理解しようと気遣う>や<妊娠中の母親に寄り添い、自分ができることを行う>という関わりが必要ととらえていた。

お腹の子に対してあまり実感ないので、子どもに対してというよりは、今は奥さんについて結構敏感になっているので、いろいろ考えながら行動はするようにはしている。(C)

#### 2) 【信頼関係を構築し夫婦で協働する】

婚姻期間が短い研究参加者の中には、期間が短い中で迎えた妊娠であるため<二人で話し合い、役割分担をしながらお互いのできることをやっていく>と考えたり、<何でも話ができる夫婦の信頼関係を早く作ることが大事と思う>、<色々な負担を夫婦で半分半分担うことが大切と思う>というように<夫婦の信頼関係をつくり負担や役割を互いに担う>関係性の構築を行い夫婦で協働する力が将来的な虐待予防につながるととらえていた。

付き合っ、結婚して妊娠するって期間が短いんで、お

互いに信頼関係、今作り上げている段階です。お互いの信頼関係だと思うので、信頼関係をつくりながらやっている途中、何でも言い合えるような間柄に早くなりたいたいと思う。(E)

#### 3) 【子どもに父親としての愛情を育む】

研究参加者たちの多くは、自分に子どもができたということから<他者の子どもへの興味がわいてくる>ようになった。また、お腹の子どもの胎動を肌で感じるようになると<お腹の子どもの成長を実感し父親としての愛情が育つ>ようになったと説明し、まだ、見ぬわが子への愛情を妊娠期から育む姿勢が虐待予防の観点で重要であると説明していた。

妊娠期からある程度胎動を感じたり、父親なりになにかこうスイッチが入れば自分として子どもがかわいいなというふうにしっかり思えるようになる。(B)

#### 4) 【父親役割と父親像を模索する】

研究参加者たちは、子どもができた実感が持てない中で、<子どもができた自覚や父親役割を模索する>ことや<父親のイメージがわからない中で自分なりの姿を想像する>、<理想の父親像を漠然と想像する>など子どもが生まれる前に自ら父親役割や理想の父親像を模索する姿勢が虐待予防の観点で大切であるとしていた。

自分でまだ父親になってないというのがありますし、まだお腹に赤ちゃんがいるという気持ちなので、どんな父親かといわれても漠然とどんな父親なんだろうって自分でも自問自答しているような段階かなってというのがありますね。(F)

#### 5) 【父親としての自覚と責任を持つ】

研究参加者たちは、<家族を守るために経済的にしっかり働く>ことや<子育てに積極的に参加しようと思う>というように<父親としての責任感と積極性が芽生える>、また、<妊娠、出産、育児に向けた手続きなど環境を整える>、<子育てに参画できるよう職場の風土、環境づくりをする>など<妊娠、出産、育児へ参画する環境基盤をつくる>という準備をすることで、将来的な児童虐待予防のための基盤をつくることにつながるととらえていた。

母親だけでなく父親も参画できるように、そういう職場の風土作りというのをした方がいいかなとは思っていますね。(F)

表 1 研究協力者の概要

	A	B	C	D	E	F
年代	50歳代	40歳代	30歳代前半	30歳代前半	30歳代後半	30歳代後半
妊娠週数	37週	32週	32週	32週	36週	38週
妊娠順位	第1子	第1子	第1子	第1子	第1子	第1子
妊娠経過	良好	良好	良好	良好	良好	良好
家族	夫婦のみ	夫婦のみ	夫婦のみ	夫婦のみ	夫婦のみ	夫婦のみ
婚姻期間	2年	1年未満	1年	7年	3年	1年
職業	介護福祉職	会社員	自営業	介護福祉職	会社員	会社員

表2 妊娠期の父親のコンピテンシー

カテゴリ	サブカテゴリ	コード	ID
妊娠中の辛さを理解し母親に寄り添う姿勢を持つ	妊娠中の母親の辛さを理解しようと気遣う	つわりや妊娠中の母親の体の辛さを慮る	BE
		母親と胎児の体調を確認する	A
	妊娠中の母親に寄り添い、自分ができることを行う	お腹の子どもの父親としてより、まずは、母親に寄り添い、必要なことをしてあげる	BCDE
		出産は変わらないので、家事や料理などできることを手伝う	ABCE
信頼関係を構築し夫婦で協働する	夫婦の信頼関係をつくり負担や役割を互いに担う	二人で話し合い、役割分担をしながらお互いのできることをやっていく	BEF
		何でも話ができる夫婦の信頼関係を早く作ることが大事と思う	EF
		色々な負担を夫婦で半分半分担うことが大切と思う	ACD
子どもに父親としての愛情を育む	他者の子どもへの興味が湧いてくる	他人の子どもへの興味がわいてくる	CD
		お腹の子どもに早く出てこいと毎日話しかける	ACD
	お腹の子どもの成長を実感し父親としての愛情が育つ	母親のお腹を毎日さする	DF
		胎動を感じ、お腹の子どもとの反応を感じ、父親としてのスイッチが入る	ABCEF
		定期健診で（胎児）の成長を実感する	B
		スキンシップからお腹の子どもが自分の子だという実感ができると愛情が育つ	A
父親役割と父親像を模索する	父親役割を模索し自分なりの理想の父親像を想像する	子どもができた自覚や父親役割を模索する	CEF
		父親のイメージが湧かない中で自分なりの姿を想像する	BF
		理想の父親像を漠然と想像する	ACEF
父親としての自覚と責任を持つ	父親としての責任感と積極性が芽生える	家族を守るために経済的にしっかり働く	CF
		子育てに積極的に参加しようと思う	BF
	妊娠、出産、育児へ参画する環境基盤をつくる	妊娠、出産、育児に向けた手続きなど環境を整える	A
		子育てに参画できるよう職場の風土、環境づくりをする	F
父親として妊娠・出産・育児の準備をする	妊娠から出産に至るまでの女性の身体の変化を学ぶ	出産に至るまでの女性の体の変化について知り、イメージして自分にできることはないかと思う	AE
		日ごとに違う妊娠による体調の違いへの対応を知る	AE
	妊娠中の病気や出産にまつわる知識やリスクについて学ぶ	妊娠中の病気やリスクについて知る	D
		出産にまつわる知識を持つ	ABD
	産後の育児について学ぶ	赤ちゃんは泣いて当たり前ということを知る	D
		沐浴の仕方や母乳、着替えなどの子育てについて知る	ED
産前産後の手続きについて学ぶ	妊娠中、出産時のサービスや行政手続きについて知る	A	
父親としての心構えを学ぶ	母親へのサポートや父親の考え方、心構えについて知る	B	
育児を思い描き他者との関係性を構築する	育児について色々な人と交流し頼るといふ考えを持つ	育児について、色々な人に頼ろうと思う	DE
		孤立しないように、色々な人とコミュニケーションを取るとうまく回る	CE
	悩みを共有する父親と交流する	悩みを共有できる父親同士の交流が大切と思う	C
		父親として実際に体験した人の対処法を聞くのがリアリティがある	D

6) 【父親として妊娠・出産・育児の準備をする】

研究参加者たちは、《妊娠から出産に至るまでの女性の身体の変化を学ぶ》ことや《妊娠中の病気や出産にまつわる知識やリスクについて学ぶ》《産後の育児について学ぶ》ことで、先々起こる可能性のある妻の心身の体調の変化を理解す

ることが、虐待予防につながるのとらえていた。また、必要な《産前産後の手続きについて学ぶ》ことで、父親としての役割を担おうと考えていた。さらに、両親学級などで妊娠中や出産後の育児などに必要な母親へのサポートなど《父親としての心構えを学ぶ》ことで先々の見通しがたち、虐待

予防につながると考えていた。

今はね、ちょっと不安定なんだってということはね、わかんなきゃいけない。精神的に不安定になることがあるから、そういう時にこそ、落ち着いて対応しなきゃいけないよとかわかんなきゃいけない。(A)

#### 7) 【育児を思い描き他者との関係性を構築する】

研究参加者たちは、虐待予防のためには「孤立しないように、色々な人とコミュニケーションを取るとうまく回る」ととらえ、また、父親として実際に体験した人たちからの話を聞くなど「悩みを共有する父親と交流する」など他者とつながることにも虐待予防として大切な意義を見だしていた。

どうしても一人で考えこんじゃうとかあって、聞ける人もいないしで、孤立するとどうしてもよくない方向に行っちゃうって。(B)

## V. 考察

### 1. 妊娠期の父親に必要なコンピテンシーの特徴

本研究で研究参加者の語りから抽出された妊娠期の第1子の父親が捉えた虐待予防の観点で妊娠期の父親に必要なコンピテンシー7つについて、どのような特徴があるのか考察する。

【妊娠中の辛さを理解し母親に寄り添う姿勢を持つ】と【信頼関係を構築し夫婦で協働する】については、『父親と母親の関係を強化していく能力』であると思われる。木越ら<sup>4)</sup>は、周産期における父親の役割獲得のプロセスの根底には妊娠している「妻への気遣い」が常に存在していると指摘している。さらに、保田<sup>5)</sup>らは、妊娠初期から「良好な夫婦関係」を保つことが、父親へと発展的な展開をする上で特に重要な体験であるとしている。母親の身体的変化や体調を視覚的に自覚し、自分にできることを考え母親に寄り添う姿勢をもつこと、夫婦が信頼関係の下、コミュニケーションをとり役割や負担を分かち合うことは、父親と母親の関係性の満足につながると考えられる。この満足が母親の育児への適応、父親の育児参加に影響している<sup>9)</sup>ということが明らかになっている。一方で、虐待傾向にある家族の特徴に夫婦関係の不安定さが指摘<sup>10)</sup>されていることから、子どもの虐待予防のためには、妊娠期から『父親と母親の関係を強化していく能力』を習得していくことが重要である。

【子どもに父親としての愛情を育む】と【父親役割と父親像を模索する】、【父親としての自覚と責任を持つ】については、妊娠・出産は、父親にとっては自らが経験することはできない未知の事柄である。杉村<sup>11)</sup>らは、胎動の自覚を活用して母親としての認識を高めることが胎児への愛着形成を支えることに有効であったと示唆している。父親についても同様に胎動や健診で胎児を見る、感じることで、胎児の存在と成長を実感し愛情が芽生え、父親としての認識に繋がっていると考えられる。また、先行研究<sup>4)</sup>では、理想の父親像をもつことが父親としての役割行動の実践につ

ながることが示唆されているように、父親役割や父親像を模索することは父親の役割を認識し行動へと発展させていくといえる。恒次ら<sup>12)</sup>は、父親固有の役割に仕事を通して家族に貢献することを第一に選択するとしている。本研究の父親たちも、経済的な安定を図ることが必要と捉えていた。児童虐待のリスクとして、経済的不安のある家庭<sup>13)</sup>が挙げられていることから、経済的な安定を図ることは子ども虐待予防の観点からは重要な姿勢と考えられる。さらに、本研究の参加者の多くは会社員や介護福祉施設の関係者であった。育児休業の取得しやすい文化が醸成されてない職場においては出産や子育てに備えて、自らが職場環境に働きかけ、育児に参画できる風土をつくっている父親もいたことが特徴的である。これら3つのコンピテンシーは、『父親の役割を認識し高める能力』であったと思われる。

【父親として妊娠・出産・育児について学ぶ】について、美里ら<sup>14)</sup>の研究では、父親は、妊娠期には「胎児や出生後の生活をイメージできる支援」を望み、出産や育児へ向けた準備をしつつ、胎児や生まれてくる新生児、新しい家族が加わった生活をイメージしようとしていると述べている。本研究でも、妊娠から出産、育児について学習していた。特に、本研究の父親は、皆第1子目の妊娠であったことが特徴的である。これまでに妊娠・出産・育児の経験がないため、イメージできないことが父親のニーズとなっていたと思われる。そのため、これから迎える妊娠の経過、出産、育児について父親がイメージできるように学ぶ姿勢は、第1子目の父親にとっては、とても重要な姿勢であった。これは、妊娠期を無事に過ごす準備、出産準備、子どもを迎える準備とまさに『父親としての準備段階の能力』であったと思われる。

【育児を思い描き他者との関係性を構築する】については、『家族外の他者につながる能力』であると考えられる。育児に関することを他者と共有することや常に関心を寄せる姿勢が父親認識をはぐくむ上で有効である<sup>8)</sup>と示唆されている。一方で、上田ら<sup>15)</sup>の保健師を対象とした研究では、子ども虐待事例における父親の対人特性に「家族以外の人との関係性を求めることが難しい」ことを指摘している。そのため、妊娠期から【育児を通じて他者との関係性を構築する】力を習得することは、子ども虐待を予防していくためには必要で、他者につながる機会をどのように創造していくかが課題であると考えられた。

### 2. 妊娠期の父親への支援について

妊娠期の父親に必要なコンピテンシーの特徴から『父親と母親の関係を強化していく能力』には、妊娠期から夫婦が相互理解や信頼関係を構築していきける共感的なコミュニケーションの習得を支援していくことが重要と思われる。特に、現在行われている両親学級は、妊娠や出産についての講義や妊婦の疑似体験などが中心<sup>3)</sup>であるが、共感的なコミュニケーションを習得できるペアレントトレーニングを両親学級で取り

入れるなど、従来からの両親学級の在り方を検討していくことが必要と思われる。また、『父親の役割を認識し高める能力』や『父親としての準備段階の能力』については、母親の胎内で起こっていることを理解し、妊娠・出産・育児と先々の経過がわかるよう可視化していくことで、父親自身がセルフケア力を高めていくこと、一方で、胎児との交流が促進される働きかけをし、父親役割の認識を高めていく支援をしていくことが特に第1子の妊娠出産を控えた父親には必要である。『家族外の他者につながる能力』については、妊娠期の父親支援として、父親同士につながる場の提供と他者に相談する力の育成が必要と思われる。自治体で行われる両親学級や父親学級などの機会を活用し、育児の先輩である父親を講師とした学習会を設定するなど、父親同士が意図的につながる場の設定を行い、これまでの妊娠期の父親に行っていた支援の内容からより一層の充実を図っていくことが必要である。

### 3. 研究の限界

今回の研究では、研究者の機縁法により協力が得られた父親を対象とし、インタビューに対して協力的な父親という偏りがある。本研究で明らかとなった妊娠後期の父親が捉える妊娠期に必要なコンピテンシーについては、6事例により抽出されたものであるため、普遍化・一般化するためには、今後さらに研究対象と方法を検討し実施することが必要である。

## VI. 結語

子ども虐待予防の観点から妊娠後期の父親が捉える妊娠期に必要な父親のコンピテンシーは、【妊娠中の辛さを理解し母親に寄り添う姿勢を持つ】、【信頼関係を構築し夫婦で協働する】、【子どもに父親としての愛情を育む】、【父親役割と父親像を模索する】、【父親としての自覚と責任を持つ】、【父親として妊娠・出産・育児の準備をする】、【育児を思い描き他者との関係性を構築する】の7つであった、そして、妊娠期から夫婦間の共感的なコミュニケーションの促進、胎児との交流や妊娠出産育児の経過を可視化して父親のセルフケア力を高める、父親同士のネットワークを構築していくことの必要性が示唆された。

### 謝 辞

ご多忙の中、本研究にご協力いただき、インタビューに快く答えていただいた研究参加者の皆様に心から感謝を申し上げます。

本研究は、2015-2018 科学研究費補助金 基盤研究 (C) (20101) (研究代表者：上田泉) の助成を受けて実施したものの一部である。

本研究に開示すべき利益相反はない。

### 引用文献

1) 厚生労働省：児童虐待防止のための取組. <https://>

- [www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/dv/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/index.html)(2021-9-10)
- 2) 足立安正：市区町村における出産前教育の実態 ～父親の育児参加を促す取り組み～. 摂南大学看護学研究 8: 55-62, 2020
  - 3) 厚生労働省：「健やか親子21(第2次)」の中間評価等に関する検討会 報告書. <https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000614300.pdf>(2021-12-20)
  - 4) 木越郁恵, 泊祐子：周産期における夫の父親役割獲得プロセス. 家族看護研究 12: 32-38, 2006
  - 5) 保田ひとみ, 畑下博世：妊娠初期から産後1か月における初めて父親になる夫の体験. 家族看護研究 17: 52-63, 2012
  - 6) 神崎光子：妊娠後期における夫の親役割への適応に関する研究(第1報)-親としての態度・行動変化と親意識, 妻との関係性, 子どもへの感情および自己状態との関連. 母性衛生 45: 540-550, 2005
  - 7) スペンサー, ライル・M., スペンサー, シグネ・M. (梅津祐良, 成田攻, 横山哲夫訳)：コンピテンシー・マネジメントの展開. 東京. 生産性出版, 2011, p11-19
  - 8) デッカー清美, 丸山昭子：父親認識に関する文献検討. 日本農村医学会誌 64: 718-724, 2015
  - 9) 佐藤小織：初産婦の夫婦関係の評価と育児満足感を構成する諸要因の関係に関する研究 育児初期の各家族に焦点を当てて. 日本助産学会誌 26, 222-231, 2012
  - 10) 西澤哲：子どもの虐待—子どもと家族への治療的アプローチ(第1版). 東京. 誠信書房, 1994, p55-58
  - 11) 杉村育重, 竹本仁美：周産期から始まる児童虐待防止支援 妊娠期・胎児期の看護ケアに注目して. 子どもと助成の虐待看護学研究 1: 67-75, 2014
  - 12) 恒次欽也, 川井尚, 庄司順一：育児における父親の役割に関する調査研究(1)-単純集計と両親の比較を通して-. 愛知教育大学研究報告 46: 105-113, 1997
  - 13) 厚生労働省：子ども虐待対応の手引き 第2章 発生予防. <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv12/02.html>(2021-11-21)
  - 14) 美里久美子, ケニヨン 充子, 岸田泰子：地域の専門職者から提供される妊娠期および育児期の支援に関する両親のニーズと父親支援の検討. 共立女子大学看護学雑誌 8: 23-32, 2021
  - 15) 上田泉, 佐伯和子, 河原田まり子他：保健師がとらえる子供虐待事例における父親の対人関係と行動の特性. 日本公衆衛生看護学雑誌 2: 2-11, 2014